

# 2021年12月期 第1四半期決算の概要

2021年5月7日



# 1 新規施設の開設状況

認可保育園 6施設（合計定員：420名）（東京都：2施設、千葉県：3施設、大阪府：1施設）

	施設名称	住所	入所定員数（名）	開設日
1	あい・あい保育園 東葛西園	東京都江戸川区	70	2021年4月1日
2	あい・あい保育園 第二新柏園	千葉県柏市	60	2021年4月1日
3	あい・あい保育園 豊四季園	千葉県柏市	90	2021年4月1日
4	あい・あい保育園 第二流山おおたかの森園	千葉県流山市	60	2021年4月1日
5	あい・あい保育園 大淀中園	大阪府大阪市	80	2021年4月1日
6	あい・あい保育園 大森園	東京都大田区	60	2021年5月1日

多機能型事業所 1施設（定員：10名）

	施設名称	住所	入所定員数（名）	開設日
1	あい・あいプラス 新柏	千葉県柏市	10	2021年4月1日

**直営施設7か所を新たに開設**

## 2 セグメントの組替・名称変更




各事業のサービス内容や特性を踏まえ、2021年12月期第1四半期決算からセグメントの組み替えを実施。

### 2020年12月期まで

セグメント分類	対象事業・サービス	運営会社
保育事業	AIAI (保育)	
介護事業	<u>にじ</u> ( <u>放課後等デイサービス</u> )	
	YASURAGI (高齢者介護)	
にじの家 (生活介護)		
ICT事業	Child Care System (保育向けICTサービス)	



### 2021年12月期 第1四半期決算以降

セグメント分類	対象事業・サービス	運営会社
チャイルドケア事業	AIAI (保育)	
	<u>AIAI PLUS</u> ( <u>多機能型施設(児童発達支援・放課後等デイサービス)</u> )	
エルダリーケア事業	YASURAGI (高齢者介護)	
	にじの家 (生活介護)	
テック事業	Child Care System (保育向けEdTechサービス)	

### 3 2021年第1四半期決算の状況

- ・売上高22.8億円、営業損益△1.2億円、経常利益△1.2億円、当期純利益△0.7億円と前年同期比対比増収、損失が大幅減。
- ・2021年度より施設開園にかかる諸費用の表示方法を変更。
- ・従来、施設開園前にかかる諸費用を売上原価に計上していたものの、費用負担の実態を明確にし、損益区分の適正化のため、「開園準備費」として営業外費用に変更。これに伴い2020年度の数値も当該表示方法の変更を反映。

(百万円)

	2020年12月期 第1四半期		2021年12月期 第1四半期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
売上高	1,747	100.0%	2,289	100.0%	+31.0%
売上原価	1,677	96.0%	2,030	88.7%	+21.0%
売上総利益	70	4.0%	259	11.3%	+269.7%
販売管理費	434	24.9%	388	17.0%	△10.8%
営業損益	△364	-	△128	-	-
営業外収益	63	-	50	-	△21.0%
営業外費用	130	7.5%	49	2.2%	△62.0%
経常利益	△431	-	△128	-	-
当期純利益	△326	-	△74	-	-

#### 売上高

- ・施設数増加や既存施設での充足率の向上に伴う利用者数増により前期比+31.0%

#### 売上総利益・営業利益

- ・要員配置の適正化により施設の人件費等を圧縮  
(売上前期比+31.0%に対して売上原価は前期比+21.0%に抑制)
- ・オフィス人件費や租税公課等の販売管理費は前期比△10.8%

#### 営業外費用

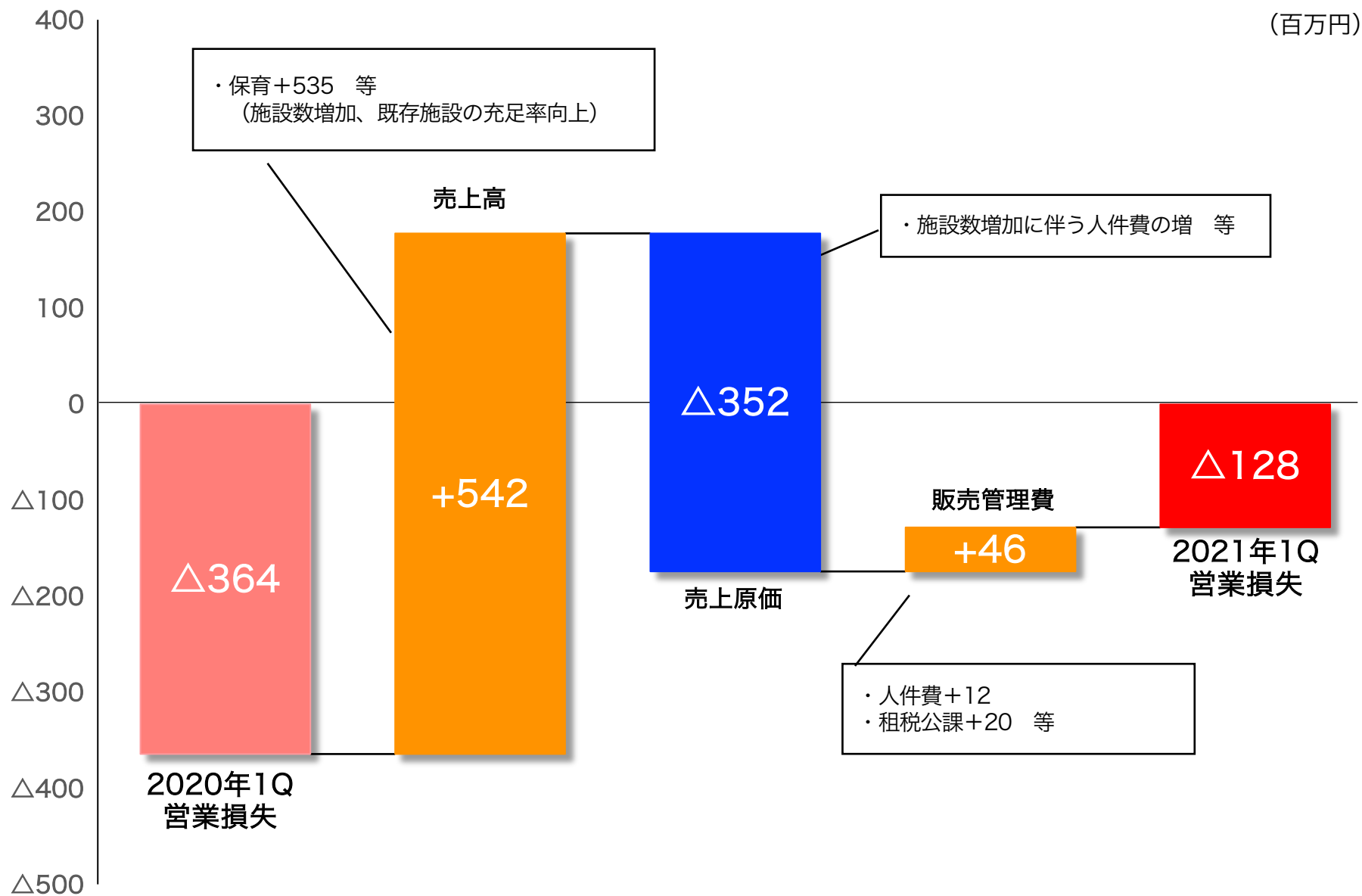
- ・開園施設数の減少から開園準備費の減△62.0%  
(2020年度数値も組替を実施)

#### 当期純利益

- ・業績の回復傾向から繰越欠損金の減少

※単位未満切捨。小数点第2位四捨五入。

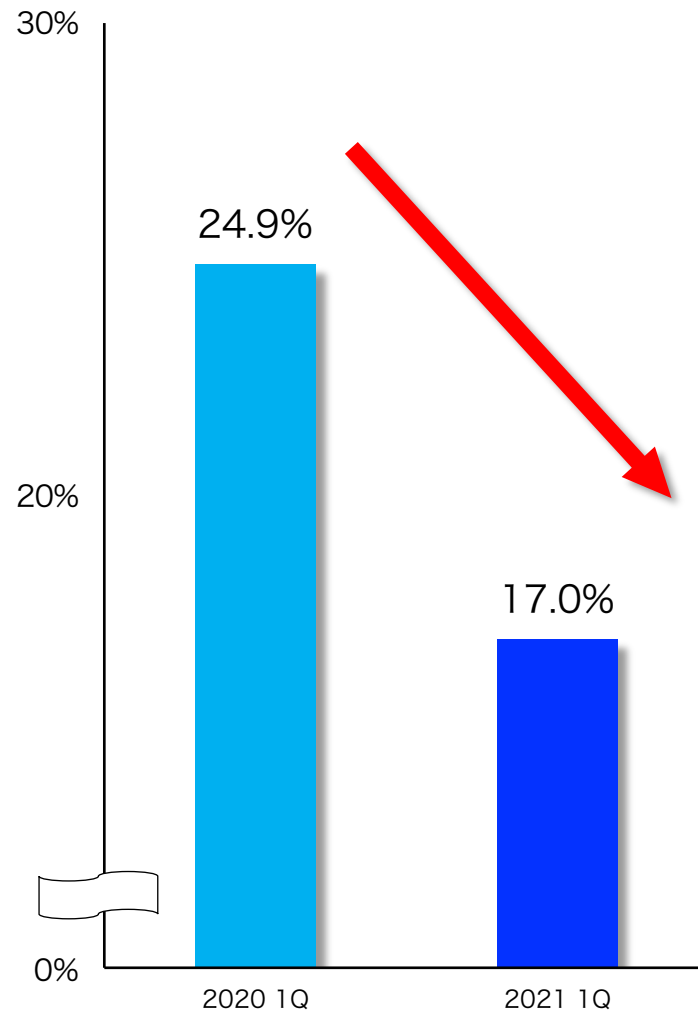
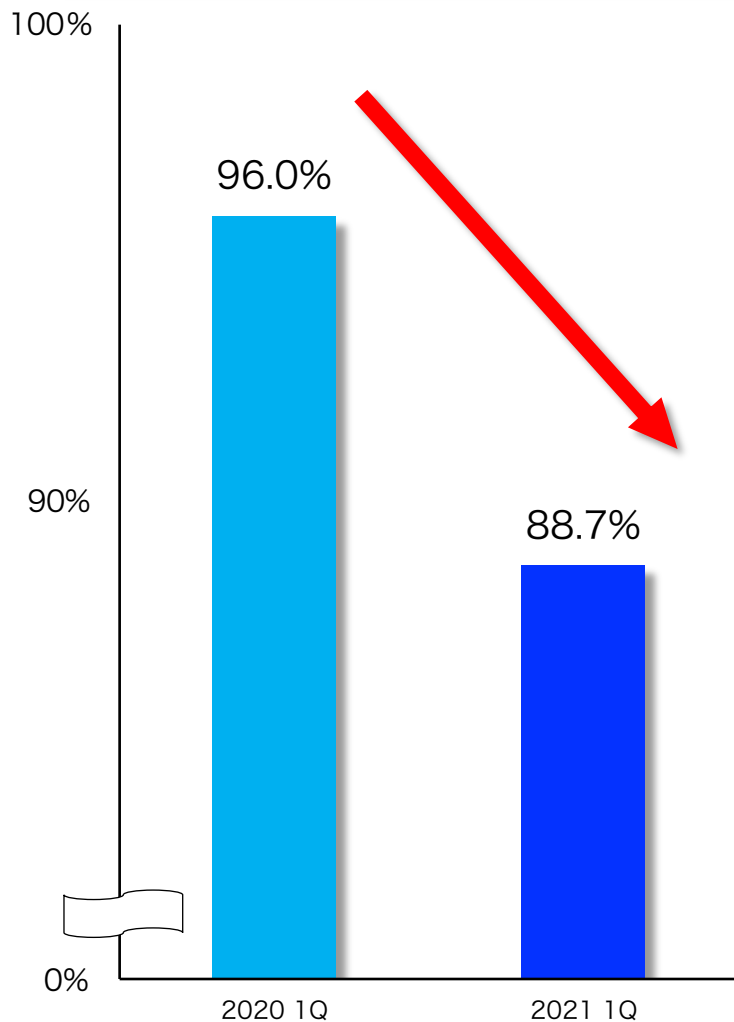
# 4 前期からの損益の推移分析



売上高原価率（四半期会計期間）

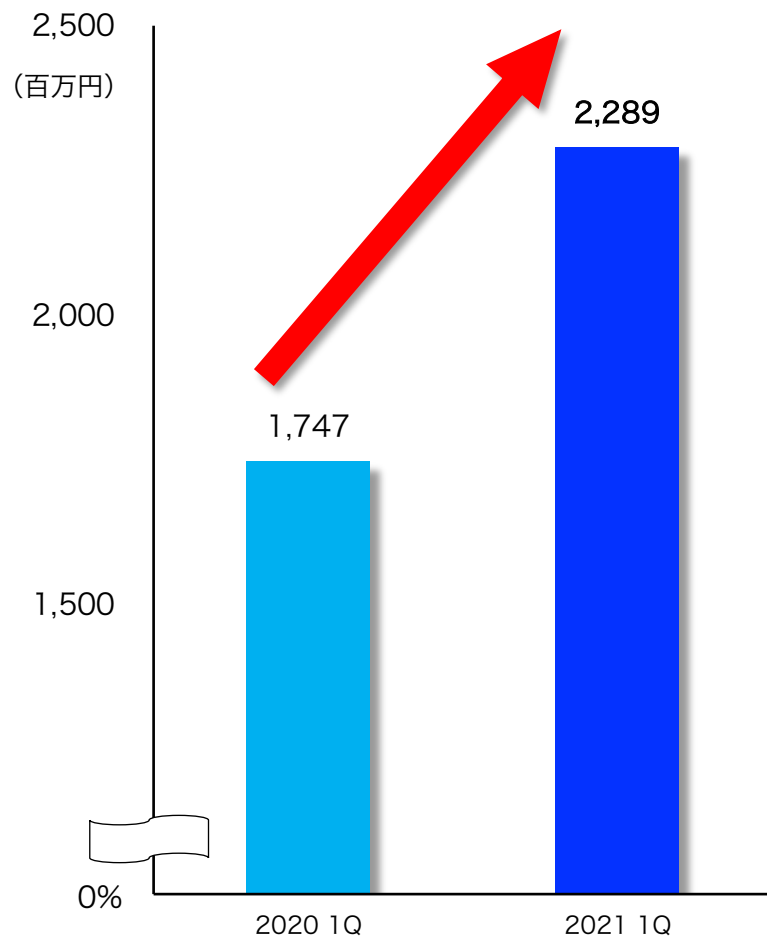
売上高販管費率（四半期会計期間）

営業原価・販管費ともに前年同期から改善



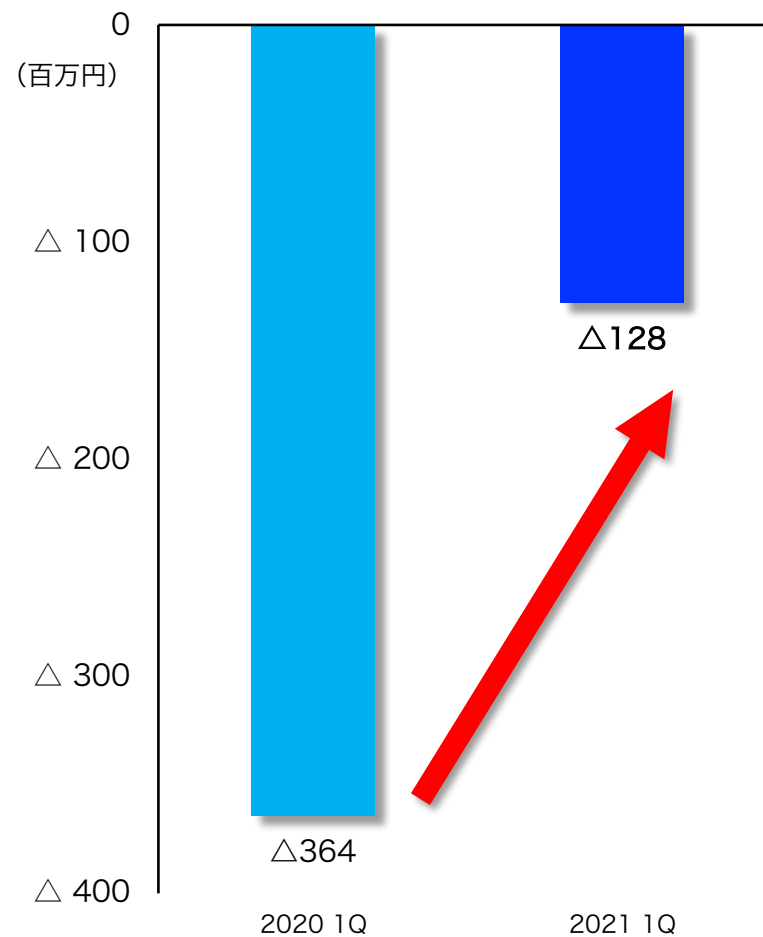
## 売上高（四半期会計期間）

売上高は前年同期から増加



## 営業損益（四半期会計期間）

営業損失は前年同期から改善



- ・売上高97.3億円、営業損益△2.2億円、経常利益1.8億円、当期純利益1.1億円（前回予想（2021.2.12）から変更なし）。
- ・新規開設施設は認可保育園6施設、児童発達支援施設1施設。
- ・新規開園数の減少により補助金収入が減少することから、経常利益ベースでは減少するものの、職員配置の適正化により、**営業損失は11億円の改善見込み。**
- ・コロナ禍における利用控えの傾向等により、2021年4月入園児数は0歳児が鈍化。引き続き、集客の強化による期中入園児増と職員の適正配置の推進や採用費の抑制に取り組む。

(百万円)

	2020年12月期	2021年12月期			主な増減要因
	実績	予想	前期差	前期比	
売上高	8,318	<b>9,733</b>	+1,415	+17.0%	保育+1,285、介護+100
営業損益	△1,380	<b>△226</b>	+1,154	-	売上増加に対して施設人件費等をコントロール
経常利益	276	<b>185</b>	△91	△33.0%	施設開設補助金△1,253 (認可保育施設：前期17施設、 今期6施設)
当期純利益	150	<b>111</b>	△39	△26.1%	—

※単位未満切捨。小数点第2位四捨五入。

※業績予想においては、重要性の観点から開園準備費の計上区分の変更に伴う修正を実施しないため、2020年12月期実績の組み替えは実施していない。



- 本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 当社の許可なく本資料の複写複製、または転送等を行うことを禁止します。